

# 筋道を立てて考えたり、表現したりする力を高める算数科指導の工夫

～ふきだしを使った既習事項の活用を通して～

特別研修員 算数・数学 石川貴子（小学校教諭）

## 実態

- ・「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」に課題。
- ・問題にどう取り組んだらよいか分からない。
- ・筋道を立てて考えたり表現したりすることが苦手。

## 手立て

- 1：既習事項を振り返り、ふきだしに書く。
- 2：既習事項から見通しを持ち、活用して自力解決する。
- 3：ふきだしの言葉を使って考えを説明する。

＜実践例＞6年「速さの表し方を考えよう」本時の課題：速さと時間から、道のりを求める方法を考えよう。

## 手立て1

既習事項を振り返り、ふきだしに書く

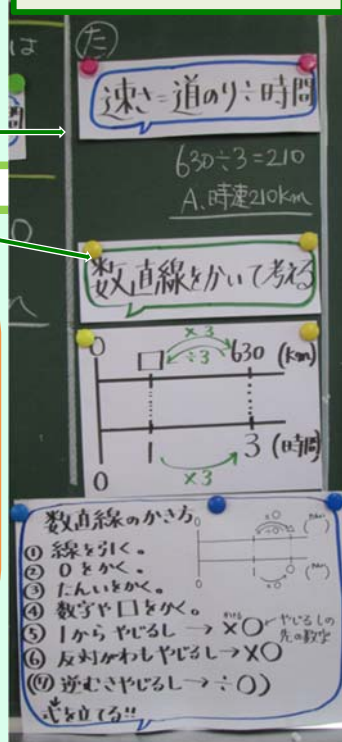
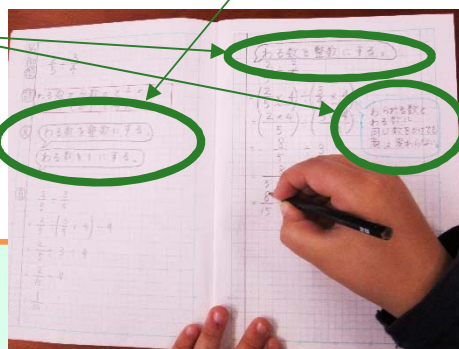
- ・授業の始めに、「たしかめ問題」で、本時の課題解決に必要な既習事項を振り返る。
- ・大切な既習事項を **ふきだし** で囲む。

たしかめ問題  
3時間に630km走る  
新幹線の時速は？

## 手立て2

既習事項から見通しを持ち、活用して自力解決する

- ・活用できそうな既習事項を考え、**ふきだし** に書く。
- ・既習事項を活用して自力解決する。
- ・**ふきだし** の言葉を使って、自分の考えをノートに書く。



## 手立て3

ふきだしの言葉を使って考えを説明する

- ・少人数のグループで、**ふきだし** の言葉を使って、全員が自分の考えを説明する。
- ・グループの中で代表の考えを選び、グループ内の別の児童が、代表の考えを全体に説明する。



## 成果と課題

- ・既習事項をふきだしに書くことにより、課題解決するために既習事項を活用する意識が定着してきた。
- ・既習事項を活用して課題解決に取り組んだことにより、筋道を立てて考えたり、表現したりする力が高まった。
- ・本集団の実態の児童には有効であったが、次のステップとして、授業の始めに「たしかめ問題」による既習事項の振り返りをしなくても児童自ら既習事項を活用して課題解決できるようにし、その分、多様な活用問題に取り組ませる時間に充てたい。